

## 奄美群島の陸—海境界領域に生息するゴカイ科多毛類

佐藤正典・坂口 建

### **Nereidid Polychaetes Inhabiting the Land-Sea Interface in the Amami Islands**

SATO Masanori and SAKAGUCHI Takeru

鹿児島大学大学院理工学研究科  
*Graduate School of Science and Technology, Kagoshima University*

#### 要旨

奄美群島の6つの島の沿岸海域および汽水域の潮間帯から採集されたゴカイ科多毛類の標本を検討し、8属15種を確認した。このうち6種は日本未記録種または未記載種と判断された。

#### はじめに

陸と海の境界領域に位置する沿岸海域の潮間帯や汽水域は、陸と海をめぐる物質循環の要として、生態学的に重要な場所である。ゴカイ科多毛類は、そのような場所の底生生物群集の主要なメンバーであり、生態系の中で果たしている役割は大きいと思われる。しかし、奄美群島を含む南西諸島の沿岸の多毛類相の研究はこれまでほとんど行われていない。本研究は、奄美群島の沿岸海域および汽水域の潮間帯に生息するゴカイ科多毛類の種相を明らかにすることを目的としている。

#### 材料と方法

奄美大島、加計呂麻島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の6つの島から2015年以前に採集された多毛類標本を整理し、ゴカイ科の種について種名を同定した。検討標本の大部分は鹿児島大学理学部佐藤研究室の所蔵標本であるが、*Perinereis* 属については、国立科学博物館（つくば市）の所蔵標本も検討した。

#### 結果と考察

奄美群島の6つの島から以下の8属15種のゴカイ科多毛類を確認した。このうち6種は日本未記録種または未記載種と判断された。

- 1) *Namalycastis hawaiiensis* (Johnson, 1903) (小河川の汽水域または淡水域に生息)。奄美大島：瀬戸内町仲金久川、阿鉄川。喜界島：浦原川。
- 2) *Tylorrhynchus osawai* (Izuka, 1903) イトメ (通常は汽水域の上流部に生息)。奄美大島：龍郷町浦 (河口外の干潟に高密度で生息していた)。日本ベントス学会 (2012) によって、絶滅のおそれのある種 (準絶滅危惧) に指定されている。
- 3) *Hediste atoka* Sato and Nakashima, 2003 ヒメヤマトカワゴカイ (通常は汽水域の上流部に生息)。奄美大島：笠利町喜瀬宮久田川、龍郷町浦。喜界島：浦原川。徳之島：伊仙町阿権浜 (河口外のスナモグリ類が生息する砂泥質潮間帯。地下水の湧出が予想される)。沖永良部島：沖泊 (河川とは無関係の沿岸潮間帯。地下水の湧出が予想される)。
- 4) *Neanthes* sp. (汽水域の下流部に生息)。奄美大島：龍郷町浦。徳之島：天城町真瀬名川下流。本種は、*N. glandicincta* に類似する未記載種と思われる。
- 5) *Perinereis mictodonta* (Marenzeller, 1879) スナイソゴカイ (河口内外の潮間帯上部の転石下などに生息)。奄美大島：笠利町手花部、龍郷町久場、屋入、宇検村部蓮川河口。喜界島：小野津、志戸桶、中間ビーチ、池治浜、湾港、スギラビーチ。
- 6) *Perinereis wilsoni* Glasby and Hsieh, 2006 イシイソゴカイ (河口外の潮間帯上部の転石下などに生息)。奄美大島：笠利町屋仁川河口、龍郷町芦徳、倉崎海岸。喜界島：塩道。沖永良部島：和泊町ワンジョビーチ、知名町沖泊ビーチ。
- 7) *Perinereis* sp. 1 (河口外の潮間帯上部の転石下などに生息)。奄美大島：笠利町用安、龍郷町安木場、秋名、芦徳、倉崎海岸、テビロ海岸、奄美市 (旧名瀬市) 梵論瀬崎、三角浜、大和村国直、名音、瀬戸内町手安。加計呂麻島：阿多地、瀬相。喜界島：早町港、池治浜。徳之島：天城町ワンヤ川河口、平土野港、伊仙町瀬田海岸。沖永良部島：和泊町笠石海浜公園、ワンジョビーチ、与和浜ビーチ、知名町沖泊ビーチ、住吉ビーチ、屋子母ビーチ、知名港。与論島：黒浜ビーチ、皆田、与論港、ハキビナビーチ、赤崎 (生殖変態個体を含む)。本種は、*P. nuntia* species group に属する日本未記録種と思われる。
- 8) *Perinereis cultrifera* (Grube, 1840) クマドリゴカイ (河口外の潮間帯上部の転石下などに生息)。奄美大島：龍郷町屋入、瀬戸内町油井、手安、瀬戸内町嘉鉄。
- 9) *Perinereis* sp. 2 (河口外の潮間帯上部の転石下などに生息)。奄美大島：龍郷町安木場港、西原、芦徳、津ノ子、屋入、赤尾木、笠利町おたき川河口、奄美市 (旧名瀬市) 屋仁川、住用村山間、瀬戸内町西古見、小名瀬、手安。加計呂麻島：三浦、瀬相。徳之島：天城町平土野港。与論島：茶花、赤崎、皆田。本種は、*P. cultrifera* に類似しているが、それとは異なる日本未記録種と思われる。

- 10) *Perinereis* sp. 3 (河口外の潮間帯上部の転石下などに生息)。奄美大島：龍郷町芦徳、屋入、瀬戸内町手安。本種は、アジアの熱帯域に分布する日本未記録種と思われる。
- 11) *Ceratonereis japonica* Imajima, 1972 キレコミゴカイ (河口外の潮間帯下部に生息)。奄美大島：笠利町赤木名、龍郷町赤尾木、屋入。加計呂麻島：呑之浦。
- 12) *Ceratonereis mirabilis* Kinberg, 1866 フタマタゴカイ (河口外の潮間帯下部に生息)。奄美大島：龍郷町屋入。
- 13) *Simplisetia erythraeensis* (Fauvel, 1918) コケゴカイ (汽水域下流部の砂泥中に穴居)。奄美大島：笠利町手花部、赤木名、龍郷町屋入、住用村住用川河口。加計呂麻島：呑之浦。
- 14) *Composetia* sp. A (小河川の汽水域上流部に生息)。奄美大島：龍郷町浦、喜瀬、宮久田川、笠利町宇宿、前川、屋仁川。加計呂麻島：仲田川、山田川。アジアの熱帯域に広く分布する未記載種と思われる。
- 15) *Composetia* sp. B クメジマナガレゴカイ (小河川の汽水域上流部に生息)。喜界島：浦原川。南西諸島固有の未記載種と思われる。日本ベントス学会 (2012) によって、絶滅のおそれのある種 (情報不足) に指定されている。

### 引用文献

日本ベントス学会編 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 285 頁, 東海大学出版会, 秦野.